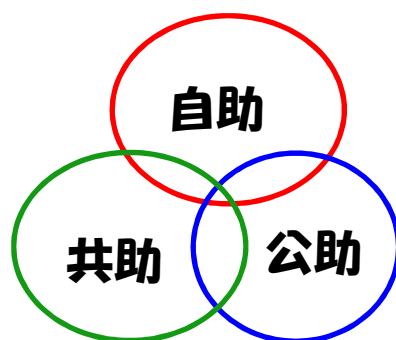


安城市校区別地震防災カルテ

学区：二本木小学校区



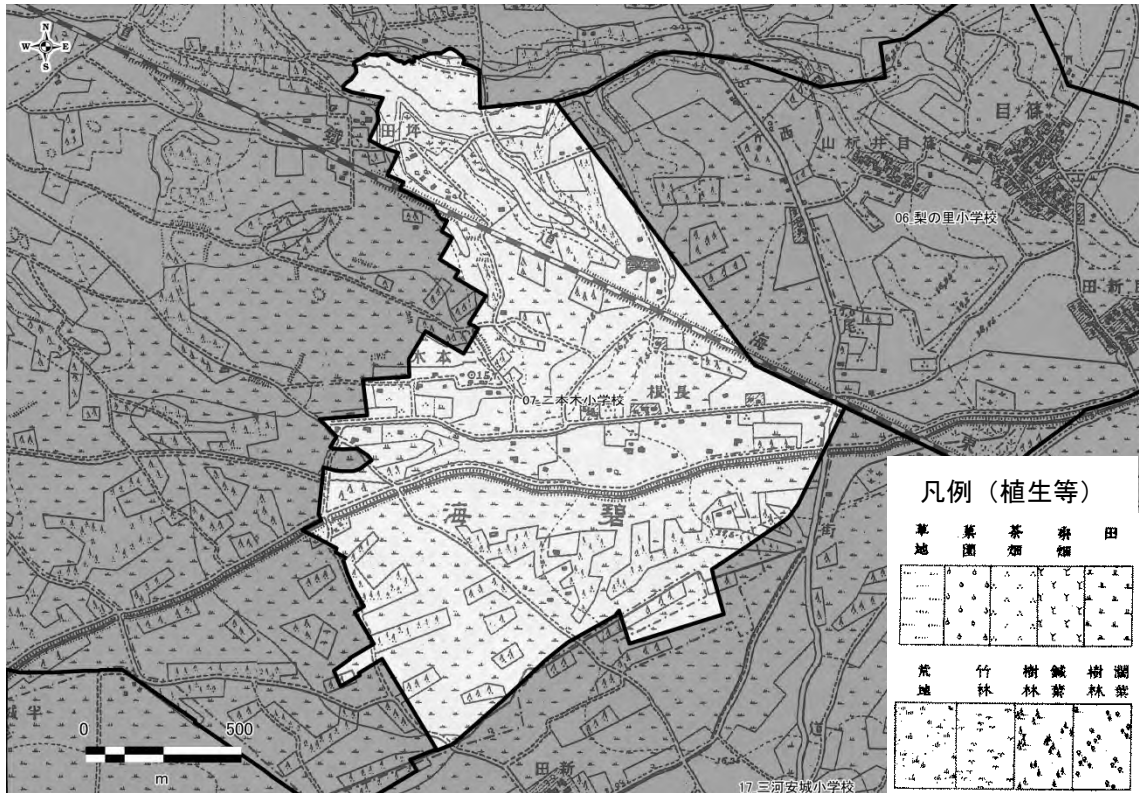
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

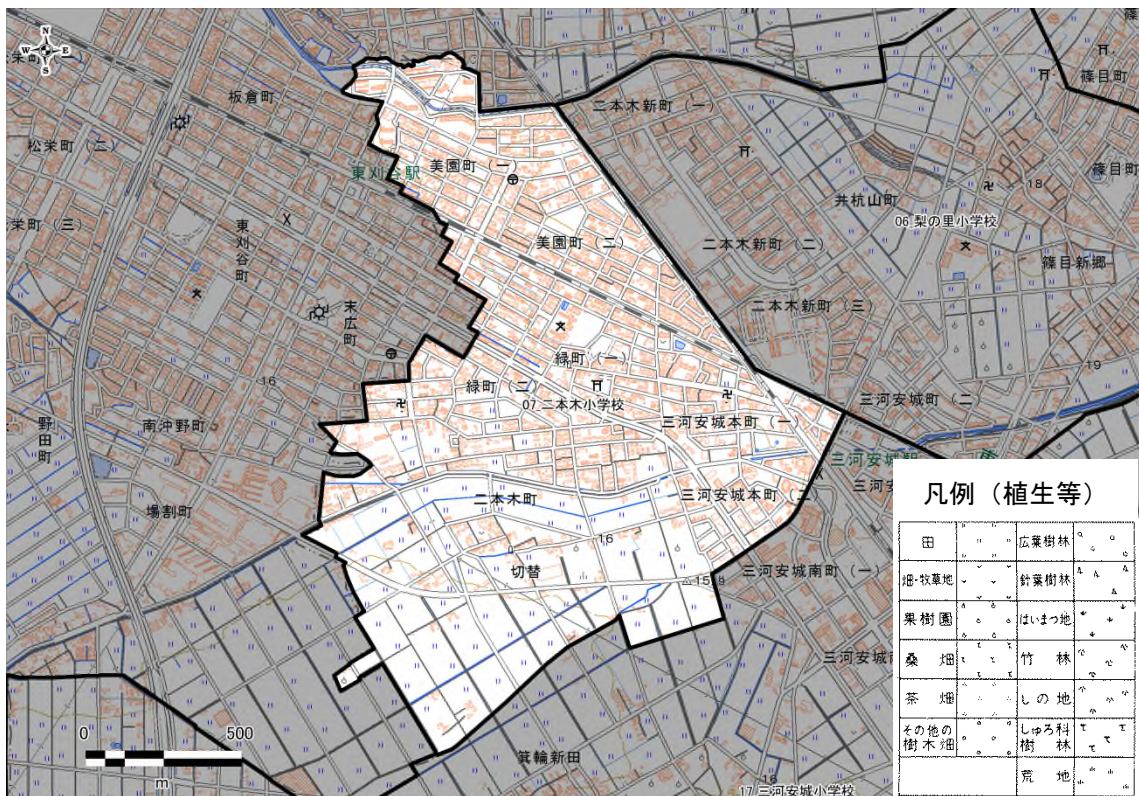
目 次

二本木小学校区のおかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	8
8. 防災上の課題	9
9. 防災関連施設分布図	10

二本木小学校区のおかしと今

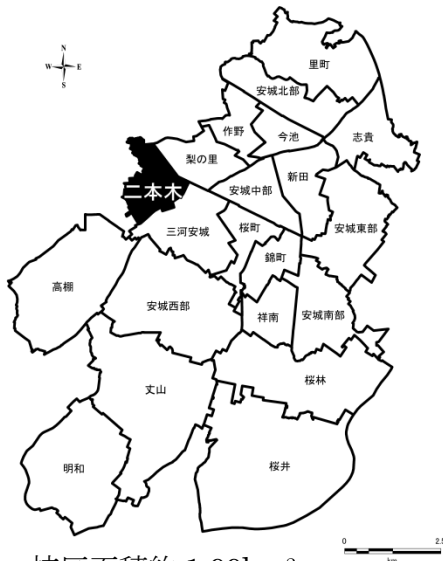


むかし (1890 年 (明治 23 年) ごろ) の校区付近の地形

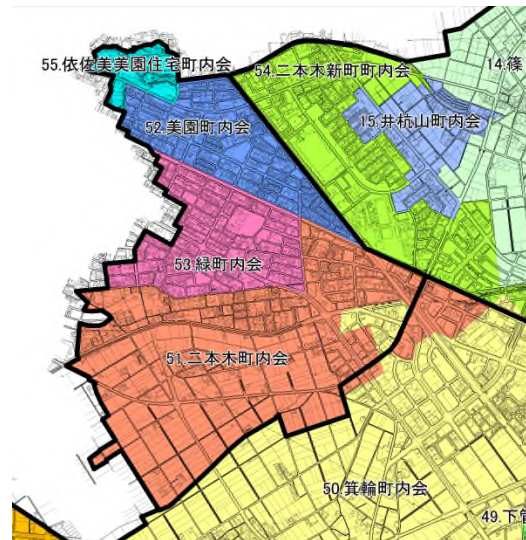


今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



校区面積約 1.99km²
(安城市全体の 2.3%)



町内会区分図

2. 校区の構成

二本木町、美園町、緑町、三河安城本町

3. 校区の概要

【位置】二本木小学校区は、市の西部に位置する。

二本木小学校区は、北部の一部が知立市との市境となっており、大半は刈谷市との市境となっている。

【地形】 校区全体がおおむね台地の上にある。その上を吹戸川が西流している。

【土地利用】 校区南部には田畑が広がっており、北部は主に住宅となっている。

【交通】 県道岡崎刈谷線（48号線）が校区内を横断している。

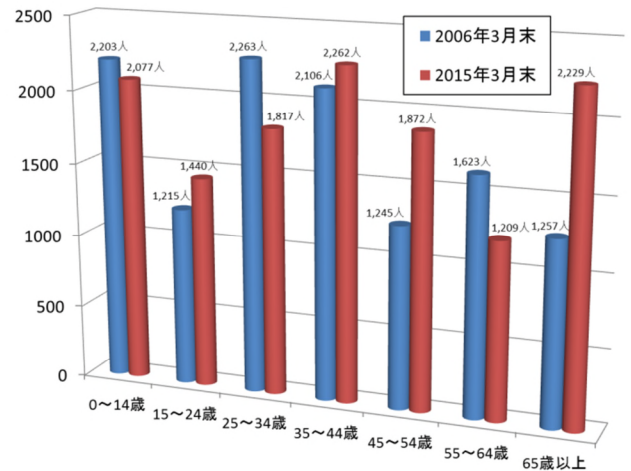
校区内には東海道本線の線路が横断しており、三河安城校区との境界には東海道新幹線の JR 三河安城駅がある。

【その他】町内会は、箕輪町内会、二本木町内会、美園町内会、緑町内会、依佐美美園住宅町内会

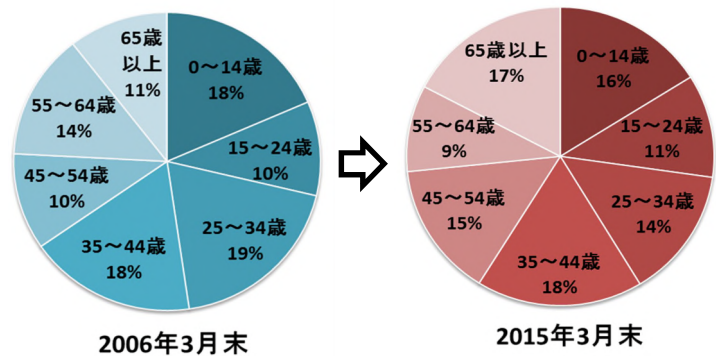
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	2,203人	18%
15～24歳	1,215人	10%
25～34歳	2,263人	19%
35～44歳	2,106人	18%
45～54歳	1,245人	10%
55～64歳	1,623人	14%
65歳以上	1,257人	11%
人口(合計)	11,912人	100%
人口密度	5,986人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	4,631世帯 (対全市 7.6%)	

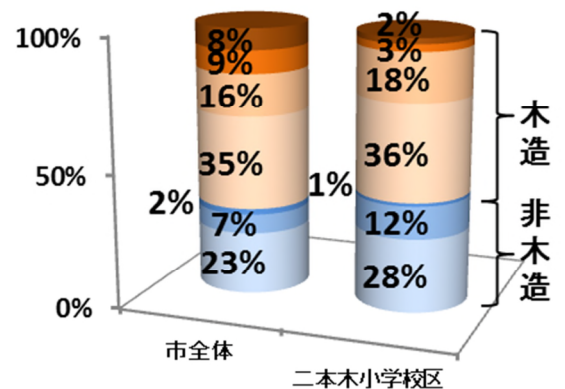


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	2,077人	16%
15～24歳	1,440人	11%
25～34歳	1,817人	14%
35～44歳	2,262人	18%
45～54歳	1,872人	15%
55～64歳	1,209人	9%
65歳以上	2,229人	17%
人口(合計)	12,906人	100%
人口密度	6,485人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	5,292世帯 (対全市 7.6%)	



【建物棟数】(2011年12月)

	建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	58棟 2%
	昭和37～46年	75棟 3%
	昭和47～56年	501棟 18%
	昭和57年以後	1,000棟 36%
非木造	昭和46年以前	33棟 1%
	昭和47～56年	337棟 12%
	昭和57年以後	754棟 28%
建物棟数(合計)		2,758棟 100%
1km ² 当たりの建物棟数(校区/全市)		校区: 1,386 / 全市: 699(棟/km ²)

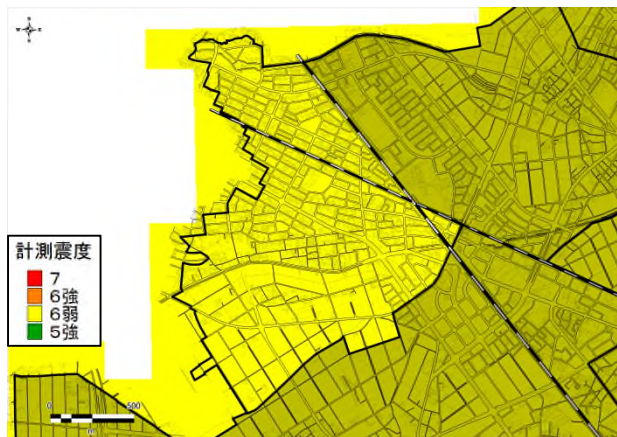


4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

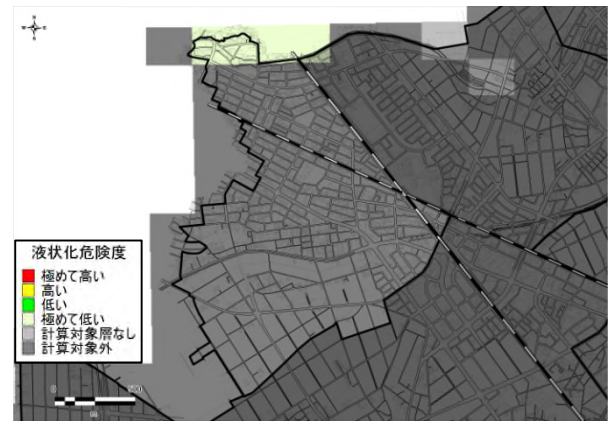
過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。

① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



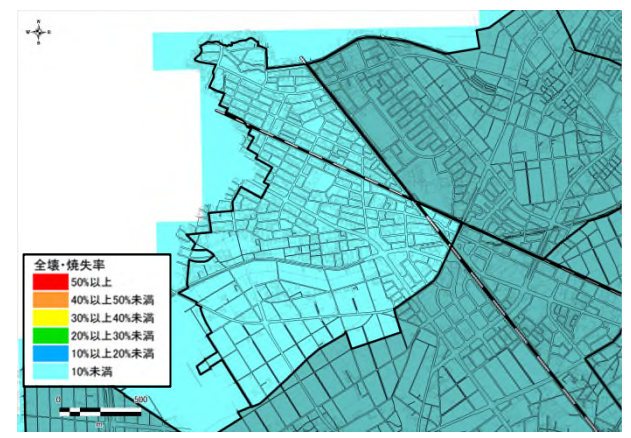
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



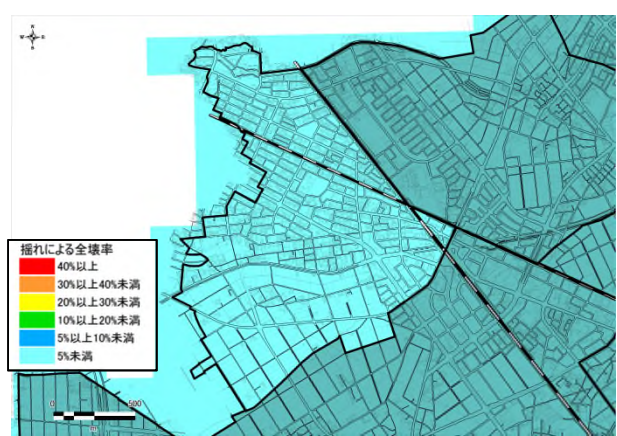
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



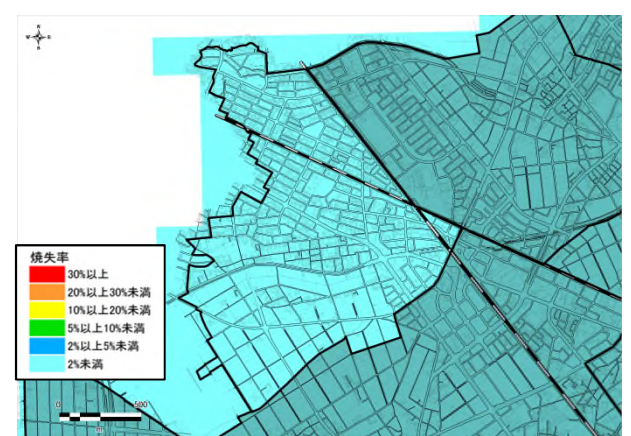
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



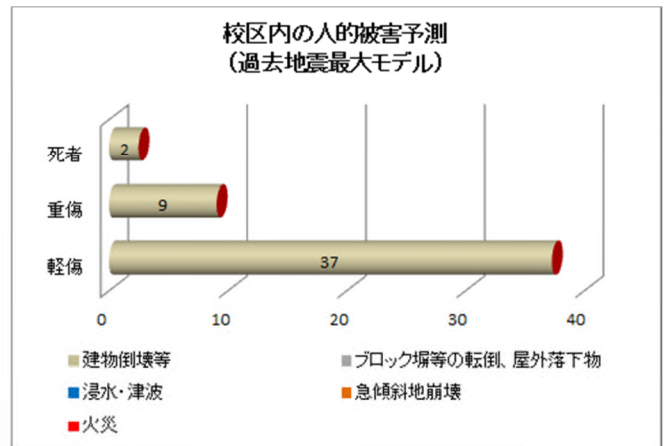
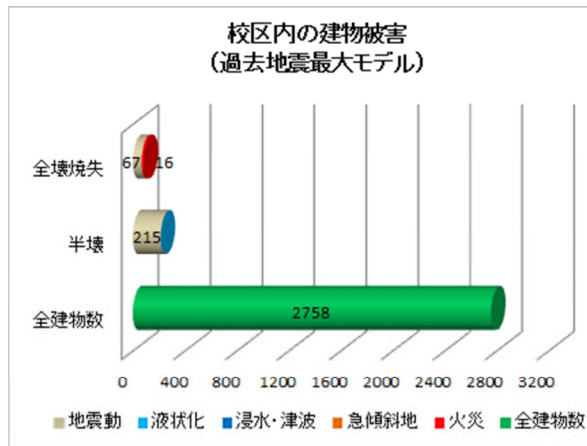
4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

二本木小学校区は、震度 6 弱の揺れが想定されている。震度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、市境付近の低平地で液状化の危険性があるとされている。JR 三河安城駅周辺では、帰宅困難者が最大で約 2,800 人程度となる可能性があり、一時滞在施設の確保を検討する必要がある。

<建物・人的被害の予測>

建物被害【冬・夕方発災】 ※()内は、校区の建物棟数2,758棟に対する割合			人的被害【冬・深夜発災】 ※()内は、校区の深夜人口12,266人に対する割合			
	全壊・焼失	半壊		死者数	重傷者数	軽傷者数
地震動	67	215	建物倒壊等	2	9	37
液状化	*	*	(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	*	(2)	(6)
浸水・津波	0	0	ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
急傾斜地	0	0	浸水・津波	0	0	0
火災	16	—	急傾斜地崩壊	0	0	0
建物被害総数	83(3.0%)	215(7.8%)	火災	*	*	*
			被害者数合計	3(0.02%)	9(0.07%)	37(0.30%)

*：わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
二本木小学校区	670	402	268	1,934	967	967	670	201	469
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



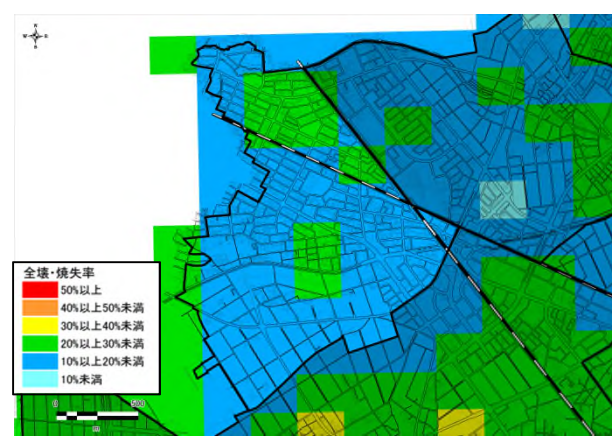
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



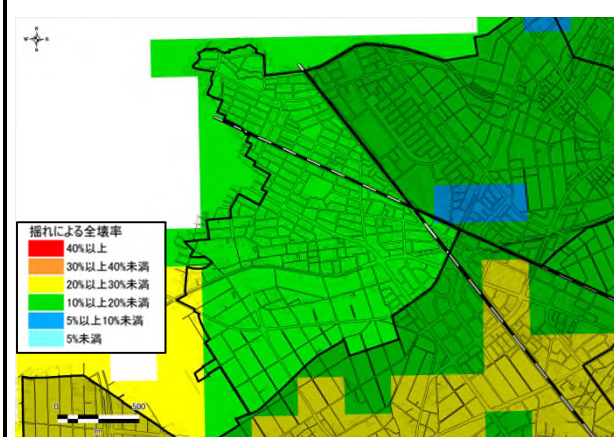
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



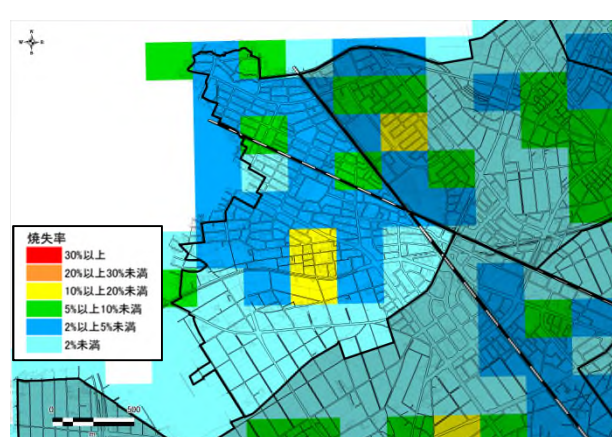
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

二本木小学校区は、全域で震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 強は、はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。

液状化に関しては、市境付近の低平地で液状化の危険性があるとされている。

帰宅困難者は、過去地震最大モデルでの想定と同様に見込まれるため、一時滞在施設の確保を検討する必要がある。

<建物・人的被害の予測>

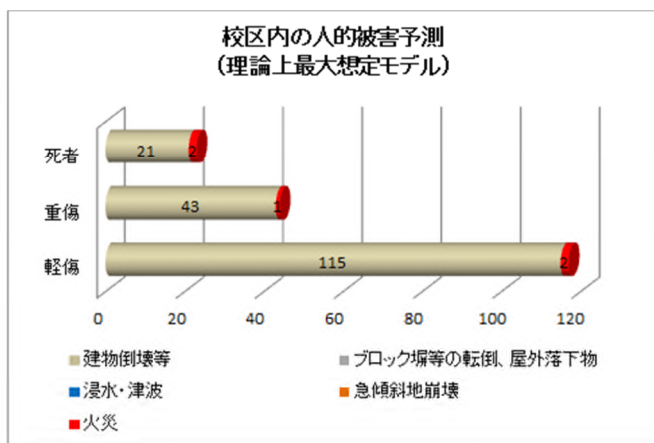
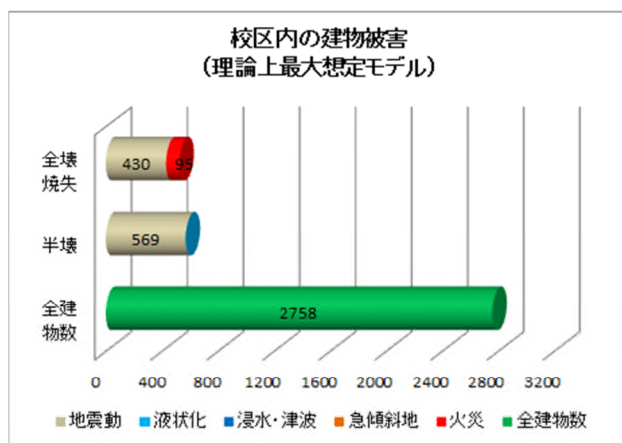
単位: (棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数2,758棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	430	569
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	95	—
建物被害総数	525(19.0%)	569(20.6%)

単位: (人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口12,266人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	21	43	115
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(1)	(9)	(32)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	2	1	2
被害者数合計	23(0.19%)	44(0.36%)	117(0.95%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	—
緊急時ヘリポート可能箇所	—
消防署	—
消防団	二本木分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所※	—
自主防災組織数	3
防災倉庫・防災資材庫	二本木公民館、二本木小学校、みその保育園
応急給水施設	二本木公民館、二本木小学校
井戸	—
マンホールトイレ	二本木小学校
学校	二本木小学校
保育園	みその保育園、二本木保育園
幼稚園	—
公民館・福祉センター	二本木公民館

※大規模災害時にのみ開設される救護所

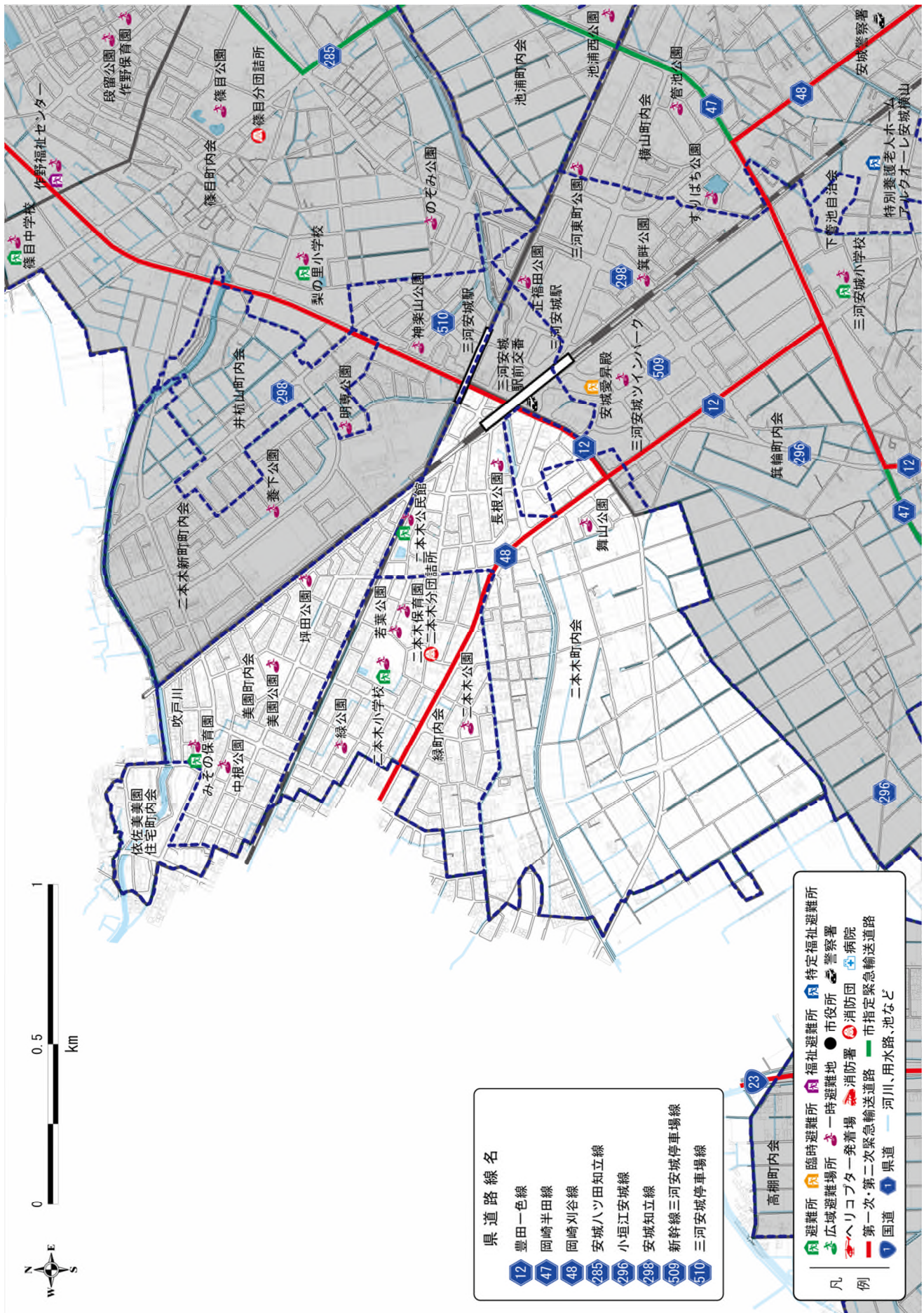
7. 避難所等一覧

避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	二本木小学校	76-4449	緑町 1-23-1	270
		二本木公民館	77-8611	三河安城本町 1-13-9	310
		みその保育園	75-2131	美園町 1-29	80
避難場所等	区分	名称	所在地		面積[m ²]
	一時	中根公園	美園町 1-15		3,200
		美園公園	美園町 2-8		8,300
		坪田公園	美園町 2-25		1,800
		緑公園	緑町 1-6		3,100
		二本木公園	緑町 2-16		3,600
		長根公園	三河安城本町 1-35-1		5,000
		舞山公園	三河安城本町 2-12-1		2,200
		若葉公園	緑町 1 丁目 30-1		3,900
		二本木小学校	緑町 1-23-1		6,500
		二本木公民館	三河安城本町 1-13-9		2,200
		みその保育園	美園町 1-29		800
		二本木保育園	緑町 1-29		1,100

8. 防災上の課題

- ・昭和 57 年以降に建てられた建物の多い地区ではあるが、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 11%、理論上最大想定モデルで約 40%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 11 人、理論上最大想定モデルで 64 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進める必要がある。
- ・火災による建物被害では理論上最大想定モデルで全壊・焼失棟数が 95 棟となる想定が出ている。火災による建物被害を減らすため、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。
- ・J R 三河安城駅周辺では、帰宅困難者が最大約 2,800 人程度発生する可能性がある。一時的に滞在できる施設を確保するとともに、地震発生後しばらくの間は、安全が確保されるのであれば、職場や学校に留まるよう啓発することも重要である。

9. 防災関連施設分布図



※最新の地形図とは異なる場合があります。

平成28年8月配布
安城市危機管理課